

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |   |         |             |
|---------|---|---------|-------------|
| 事業所番号   | 4070402096                                |         |             |
| 法人名     | 有限会社 山崎メディカルサービス                          |         |             |
| 事業所名    | グループホーム 琴音 (1ユニット・2ユニット)                  |         |             |
| 所在地     | 〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴1丁目12番10号第2日の出ビル2F |         |             |
| 自己評価作成日 | 平成24年2月26日                                | 評価結果確定日 | 平成24年03月26日 |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

|  |
|--|
| 生活の中に入居者が少しでも自信や、喜び、など喜怒哀楽が生まれる事を目指したホームにしたい |
|--|

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                      |              |  |
|-------|----------------------|--------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 |              |  |
| 所在地   | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 | 093-582-0294 |  |
| 訪問調査日 | 平成 24年03月14日         |              |  |

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

|   |
|---|
| 「琴音」は、板櫃川の桜並木と、緑豊かな公園が見渡せる、利便性の良い国道3号線沿いに、6階建てビルの2階部分にあり、病院を改築した2ユニットのグループホームである。管理者と職員は、利用者の毎日の、健康状態を把握し、母体が医療法人で、主治医との連携を図り、美味しい食事や日課の散歩、生活リハビリ等を、取り入れた自立支援に向けた取り組みは、利用者や家族と、信頼関係を築き、「ここを選んで良かった」という満足感を与えている。また、運営推進会議を、活かした地域との取り組みは、公園清掃や、地域行事に、利用者と職員が参加し、顔なじみの関係を築き、散歩時の挨拶や、会話等、日常的な交流で、信頼関係に結び付いている。また、家族の面会が多く、リビングでの、利用者と職員の会話に入ってもらい、家族のような雰囲気を出している「琴音」である。 |
|---|

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目   | 取り組みの成果<br>該当するものに印   | 項目  | 取り組みの成果<br>該当するものに印   |
|--|---|---|---|
| 58<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を<br>掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 65<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求<br>めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい<br>る<br>(参考項目:9,10,19)   | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 59<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場があ<br>る<br>(参考項目:18,38)              | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 66<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域<br>の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                         | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 60<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係<br>者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理<br>解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 61<br>利用者は、職員が支援することで生き生きした表<br>情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68<br>職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)  | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 62<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                      | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 69<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足<br>していると思う   | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 63<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく<br>過ごしている<br>(参考項目:30,31)         | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 70<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにお<br>おおむね満足していると思う                                      | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 64<br>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な<br>支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

| 自己              | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|-----------------|----|---|--|---|-------------------|
|                 |    |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>理念に基づく運営</b> |    |   |  |   |                   |
| 1               | 1  | 理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                           | 理念をホーム内に掲示し常に共有実践に努めている                            | ホーム独自の理念を4項目掲げ、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごせるように、利用者一人ひとりの生活、人権を尊重し、地域に愛される介護サービスの提供を行い、実践に向けた取り組みをしている。                |                   |
| 2               | 2  | 事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                           | 消防訓練、自治会行事に積極的に参加又交流し地域に知られるようになっている               | 地域主催の文化祭、運動会等に、利用者と職員が参加し、親しく懇談するなかで、公園の散歩時に出て立ち話をする等、近隣住民との交流も深まっている。  |                   |
| 3               |    | 事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                         | 運営推進会議を通じて地域の方に参加してもらいホームの生活を感じてもらい認知症について理解を深めている |   |                   |
| 4               | 3  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | 2ヶ月に1回介護を開きサービス向上にいかしている                           | 会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、ホーム職員等の参加のもと2ヶ月毎に開催し、ホームの状況や課題を報告し、参加者から意見やアイデア等出していただき、次の開催日までできるだけ回答し、活発な会議になっている。 |                   |
| 5               | 4  | 市町村との連携<br>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                 | 地域の民生委員や地域包括センターの方と協力関係が出来ている                      | 運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や課題を、積極的に伝え理解してもらっている。また、民生委員からは、地域の独居者の情報をいただき、管理者が訪問する等、関係を築くための努力をしている。     |                   |
| 6               | 5  | 身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束の研修会を開き職員が理解し拘束をしないケアに取り組んでいる              | 身体拘束廃止に関する研修を実施し、職員は利用者にも与える影響を理解し、身体拘束をしないケアの実践を目指し、利用者が安全に暮らせるための支援をしている。                                   |                   |
| 7               |    | 虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている       | 定期的に研修会を開いており職員が理解を深め防止に努めている                      |   |                   |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|----|--|--|--|-------------------|
|    |    |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  | 6  | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                       | 職員が研修会に参加し又運推会議などで、議題としてあげ情報を共有出来る様に努めている                              | 現在、制度の活用事例はないが、資料やパンフレットを揃えている。また、職員は、制度についての研修を受講し、利用者、家族が活用を必要とする時、いつでも支援できる体制がある。 |                   |
| 9  |    | 契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 十分な説明とともに書面をもって理解と納得を得ている  |  |                   |
| 10 | 7  | 運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている  | 意見箱の活用は、あまりなされていないが、行事や便りなどで要望、意見を聞く機会を設けている                           | 家族の来訪が多く、家族の意見や要望を聞き取り、遠方の家族には、電話や手紙等を使って連絡を取りながら、利用者や家族の希望を聞き取り、ホームの運営に反映させている。     |                   |
| 11 | 8  | 運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | 月1回のミーティングで、職員の意見、提案を聞く機会を設け反映している                                     | 職員会議を毎月開き、勉強会やカンファレンスを兼ねた職員全員参加の充実した意見交換の場となっている。出された意見や要望を検討し、出来るだけ反映させる努力をしている。    |                   |
| 12 |    | 就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 就業者の勤務状況を把握し管理者を通じ環境、条件の整備に努めている                                       |  |                   |
| 13 | 9  | 人権尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用については、制限を設けていない<br>管理者は、職員の能力を考え自己の責任を持ってもらい長く努めてもらうように体制作りが出来ている | 職員の採用は、年齢、性別の制限はしていないが、経験や資格者を優先し、即戦力を活かして採用している。また、職員の特技を生かして適材適所の勤務体制を実施している。      |                   |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動<br>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる   | 外部研修を通じ職員が、共有出来る様に取り組んでいる 又入居者に対しても言葉使いや態度など人権を踏まえ対応している               | 毎月の職員会議で、理念や人権に関する勉強会を実施し、利用者の人権尊重に結びつく、優しい言葉かけや介護を実践している。                           |                   |
| 15 |    | 職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている  | 出来る限りの研修を受ける機会を設け職員の質向上に努めが、出来ている                                      |  |                   |

| 自己                       | 外部 | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|--------------------------|----|---|---|--|-------------------|
|                          |    |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16                       |    | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | GH協議会を通じ同業の方との意見交換や交流を深める機会を設けている                       |  |                   |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |   |   |  |                   |
| 17                       |    | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 本人との面談を通じサービスを導入する前に話を聞き悩みや希望、不安を解消する為介護計画に反映出来る様に努めている |  |                   |
| 18                       |    | 初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 同様に家族からも要望を聞きそれが、介護計画に反映されるように努めている                     |  |                   |
| 19                       |    | 初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 同様に先ず必要としている事を探し他のサービスも選択出来る様に配慮し努めている                  |  |                   |
| 20                       |    | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 基本、生活する事を、念頭に置き生活を共にする所から関係を築くように職員間で確認し合い日々努めている       |  |                   |
| 21                       |    | 本人と共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 家族も同様にホームという生活の場を職員と共に家族も一緒に支えていくように話し合いその関係を築いてる       |  |                   |
| 22                       | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | 時として入居者の要望や希望を聞き面会や訪問が出来る様に支援している                       | 友人、知人が気軽に訪問し、遠方からの親戚が年に4回の訪問があり、利用者の喜びはまた格別である。また、利用者の住んでいた自宅を訪問する等、利用者の馴染みの人や場所との関係継続の手助けをしている。 |                   |
| 23                       |    | 利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                            | 職員が生活の場にいる事で個々の性格を把握し利用者が、円滑に関わりが持てるように努めている            |  |                   |

| 自己                              | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|---------------------------------|----|---|--|--|-------------------|
|                                 |    |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24                              |    | 関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービスが終了しても本人が亡くなるまでその経過を把握し相談、支援に努めている                   |  |                   |
| <b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |   |  |  |                   |
| 25                              | 12 | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 職員は機会あるごとに、利用者との会話から思いや希望、意向を把握して困難の場合本位で検討が出来ている        | 利用者と馴染みの関係を築いているベテラン職員は、毎日の会話や独り言、表情から、その思いや意向を把握し、出来るだけ利用者が、安心して過ごせるように本人本位に検討し、支援できる取組をしている。 |                   |
| 26                              |    | これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居時に利用者の家族から情報を集め以前のサービス利用状況を聞き今後の本人のサービスに反映されえるように努めている |  |                   |
| 27                              |    | 暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 利用者の身体的な事、過ごし方、など記録というものから職員が同じように共有出来る様に努めている           |  |                   |
| 28                              | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回のミーティングでモニタリングしそれが反映されるように計画している                      | 利用者や家族の希望を聴き、月1回のミーティングでモニタリングし関係者で検討し合い、出来るだけ介護計画に反映されるように作成している。                             |                   |
| 29                              |    | 個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々、職員間で情報を共有し介護記録に記録しミーティング等で見直し実践している                   |  |                   |
| 30                              |    | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 月2回の整形外科医の往診、理学療法士による個別リハビリの実施、買い物支援をしている                |  |                   |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |   |
|----|----|--|---|--|---|
|    |    |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                                   |
| 31 |    | 地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 色んな地域資源を活用し利用者と共に安全に楽しむ事が出来る様に支援が出来る                            |  |   |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 利用者家族の希望を優先し受診支援、状況に応じた対応、往診、訪問看護との連携24時間安心な医療が受けられるように環境が整っている | 月2回、整形外科医の往診と訪問介護の訪問がある。また、緊急時対応や協力医療機関との24時間連携し、利用者が安心できる健康管理体制がある。利用者や家族の希望を優先し、受診支援をしている。 |   |
| 33 |    | 看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | ホームに職員兼看護師が、おり又訪問看護師と常に連携が取れている又その支援をしている                       |  |   |
| 34 |    | 入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 連携病院が、あり入院の際は、常に情報交換をしており早期に退院できるように努めている                       |  |   |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 家族の意向を最優先し看取りに向けての話し合い訪問看護との連携主治医との連携がとれるように取り組みが出来ている          | 重度化や終末期については、入居時に、利用者、家族に説明し理解を得ている。最近、看取りを経験し、主治医、訪問看護師と職員が連携し、職員間の意識の向上に繋がっている。            |   |
| 36 |    | 急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 不定期では、あるが心肺蘇生訓練定期的に防災訓練を実施している                                  |  |   |
| 37 | 16 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年に2回又その内1回は、地域の方を含めて大掛かりな防災訓練を行っている                             | 年2回、消防署の協力のもと緊急通報措置、避難経路等の確認を行っている。また、そのうちの1回は、ホーム前の公園で地域の方と一緒に、消火器やAEDの扱い方等大掛かりな訓練を実施している。  | 非常災害時に備え、電気、ガス、水道が使用できない場合を想定し、非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。 |

| 自己                           | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------|----|---|--|---|-------------------|
|                              |    |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |   |  |   |                   |
| 38                           | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 理念に尊厳を守ると掲げているように、日々意識しながら利用者関わっている              | 職員は、利用者の尊厳を守りながら、穏やかで、のんびりと、家庭的な雰囲気の中で、利用者がゆっくりと過ごせるように配慮し、日々の暮らしが、楽しくなるように、利用者に合わせた言葉かけをし、職員全員で利用者の人格を尊重した支援をしている。                   |                   |
| 39                           |    | 利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 生活支援であり出来る事を見つけそこに喜びが見出せるように働きかけている              |   |                   |
| 40                           |    | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ホームの主役は、利用者であり 先ず利用者ありきの考えを意識し支援できるように心がけが出来る    |   |                   |
| 41                           |    | 身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 整容は、その人の体調など精神の変化に影響するので、特に個人の好みも把握し支援が出来たい      |   |                   |
| 42                           | 18 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食する楽しみが、大事な事を、意識しその時間が、くつろげるように支援が出来ている          | 利用者と職員は、昼食の料理に必要な人参、ジャガイモ、モヤシの根切り等食事の下拵えを一緒に行っている様子は、生き生きして、ほほえましい姿である。また、食事前に、管理者は、日々の様子の話やストレッチをし、利用者にメリハリをつける配慮をし、穏やかな家庭的な食事風景である。 |                   |
| 43                           |    | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 水分、排泄、食事量など記録し個々の状態が把握できるようにしている                 |   |                   |
| 44                           |    | 口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 必要に応じて訪問歯科を利用出来る様にしており声かけをし食後の口腔ケアは、かかさないようにしている |   |                   |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|----|--|--|---|-------------------|
|    |    |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄チェック表で利用者の排泄量やそのパターンを把握して排泄の自立に向けた支援が行われている      | 利用者一人ひとりの排泄チェック表をもとに、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしている。また、利用者のほとんどが布パンツにパット使用で、排出の自立に向けての支援が行われている。    |                   |
| 46 |    | 便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 利用者の多くが、通じが良くないので食事やおやつなど、又下剤などを使い個々に応じた予防に取り組んでいる |   |                   |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | なるべく入浴するように体調などチェックしながら気持ちよく入浴できるように支援できている        | 入浴は、週3回であるが、利用者の希望を優先し、いつでも入れる体制がある。利用者が、気持ち良く、楽しい入浴になるように支援している。                               |                   |
| 48 |    | 安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 個々の体調を把握し休息を勧めたり睡眠リズムを知る事で十分な睡眠がとれる様に支援できている       |   |                   |
| 49 |    | 服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 個々の内服の内容が、わかるように個別に薬情をまとめてファイルに収めていつでも参照できるようにしている |   |                   |
| 50 |    | 役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 個々の出来る事の能力を把握しホームで参加して働き又気分転換に外出も勧めたりこちらからも提供している  |   |                   |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ホームでの外出を含めて家族や、職員と外出できるように支援が出来ている                 | 利用者の重度化に伴い全員での外出は難しくなっているが、寒い時期を除いて、毎月1回、家族に協力を得て、一緒にバスハイクを行っている。また、利用者は家族と外食することも楽しみの一つとなっている。 |                   |



| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 |     | <p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>  | <p>本人の希望があれば所持するようにしている又難しいようであれば職員が同行し買い物をしたりして生活の一部である行為について支援が出来る</p> |   |                   |
| 53 |     | <p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>   | <p>年賀や暑中見舞いなど書初めなど字を書くことの能力が持続できるように支援が出来る</p>                           |   |                   |
| 54 | 2 2 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>花を飾る、カレンダーを置く、またなるべく生活にリズムが出来る様に会話の中に季節や時代を感じるように心地よい空間作りを心がけている</p>  | <p>リビングルームにある台所は、対面式で利用者の様子が窺え、安全面の配慮がある。6階建てビルの2階部分のホームを家庭的な雰囲気にするために、利用者と職員の手づくりのカレンダー、習字、生花等を配置し、思い思いの品が飾られ、季節を感じる心地よい空間である。</p> |                   |
| 55 |     | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>  | <p>職員が利用者の関わりを観察し個々でも楽しめるように工夫が出来る</p>                                   |   |                   |
| 56 | 2 3 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>  | <p>入居時の段階から使い慣れた物を居室にお願いしており住みやすい居心地良いように工夫が、できる</p>                     | <p>居室は、仏壇、家具、机等、利用者が使い慣れた品々を利用者や家族にお願いし、持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>   |                   |
| 57 |     | <p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>   | <p>生活し易いように表示したり安全に生活できるように整理整頓を心がけている</p>                               |   |                   |